

コード	504040201
記入日	H21.6.1

事務事業途中評価表

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川義男
担当者	中山利朗

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	江袋教会復興支援実行委員会活動費補助金
----------	---------------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 20 年度 ～ 平成 21 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	504	施策名称	伝統、文化の保存・継承と創造	項コード	5
基本事業コード	50404	基本事業名称	文化財の整備と活用	目コード	1
事務事業コード	5040402	事務事業名称	文化財保護の充実	細目コード	
関連計画	法令・条例規則等				

計画 (PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象: 誰、何を対象にしているのか		対象指標: 対象の大きさを表す指標					
(対象1) 町民		(対象指標1) 24,299人(H20.4.1現在)					
(対象2) * * * * *		(対象指標2) * * * * *					
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
実行委員会を組織し、復元に向けた支援体制を整える。具体的には、募金活動の支援と復元状況を周知する情報誌の発行を行う。	会議開催数1回。情報誌の発行1回。募金箱を公共機関に設置した。	* * * * *	* * * * *	*****	設立実行委員会数1	平成22年度	
		実行委員会数	1件	100%	÷計画した実行委員会数1	平成20年度	
		①	(達成率分析) 事業計画に基づき、適切に実施された。				
		* * * * *	* * * * *	*****			
		②	(達成率分析)				
目的: 何をしたいのか		成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)					
江袋教会復元に向けて、官民協力した支援体制を整えたい。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		* * * * *	* * * * *	*****	会議開催数1回÷会議開催予定数2回	平成21年度	
		①	会議開催数	1回	50%		平成20年度
		①	(達成率分析) 今年度2回会議開催を予定していたが、委員の日程調整がつかず1回のみの開催となった。				
		* * * * *	* * * * *	*****	募金箱設置場所38箇所÷計画した募金箱設置場所38箇所	* * * * *	
		②	募金設置箇所	38箇所	100%		平成21年度
②	(達成率分析) 町内の観光施設、公共機関へ計画どおり設置することができた。						

実施 (DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	①委員会	1	1		1	1					
	②										
成果指標	①回	2	1		2	1					
	②箇所	38	38		38	38					
総事業費C (A+B)		千円	1,200	1,200		1,200	1,200				
直接事業費 A		千円	500	500		500	500				
人件費 B		千円	700	700		700	700				
内訳	従事職員数	人	0.1	0.1		0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源		千円	1,200	1,200		1,200	1,200				

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	町民共有の財産として、復元を支援するため、必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	時代の変化に関係なく、文化財の保護活動は行わなければならない。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	町指定文化財の保護活動であり、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	着々と募金額は増えている。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	復元の状況を広く周知することにより、支援の輪をもっと広げる余地はある。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	官民共同の支援が行えない。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ● できない	理由	類似事業はない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	活動の内容を精査すれば、事業費を削減できる。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	必要最低限の人数で実施したので、削減できない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	受益者負担はなし。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	会議開催数等を増やし、活動を活発化し、有効性を上げることができる。
		効率性	現在のところ計画を見直す必要はない。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおりに
		有効性	江袋教会の復興に向けて実行委員会の活動に期待するものであるから、その活動を積極的に支援を行っていくこと。
		効率性	補助金の交付については審査の上、適正な執行に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。